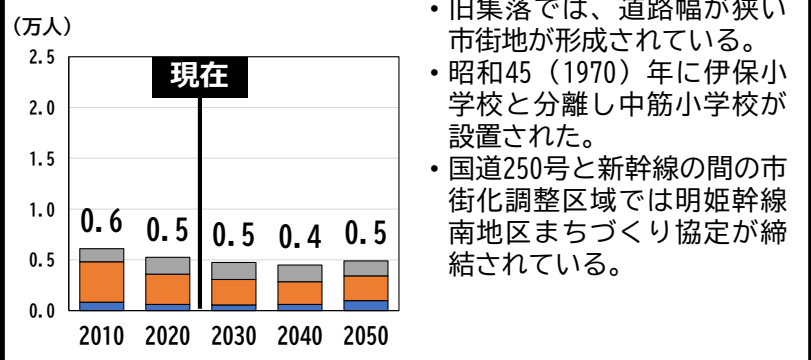


多面的な実態把握

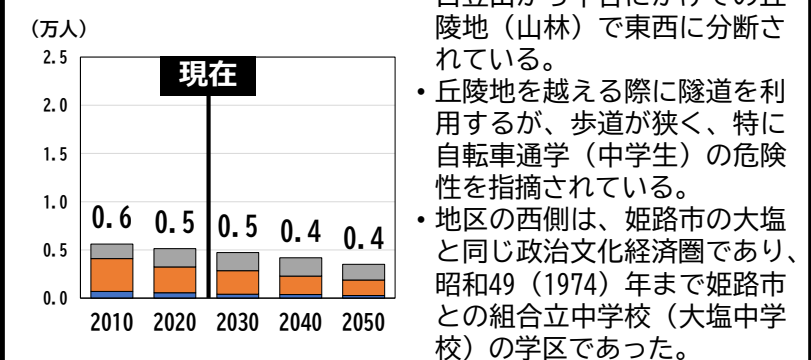
- ・ 地域状況
- ・ 通学区域の調査検討
- ・ 学校運営コストの視点

1. 地域状況

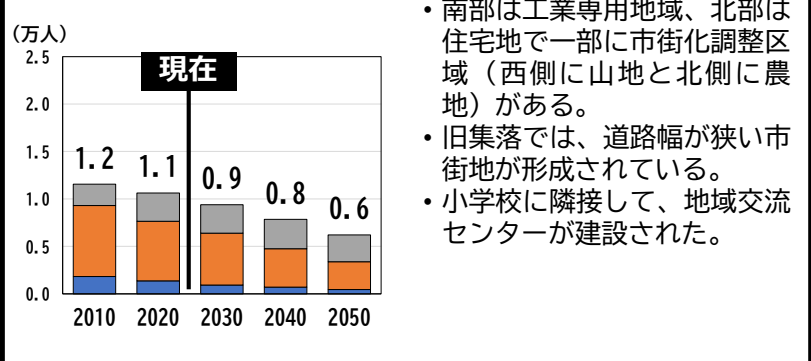
中筋地区



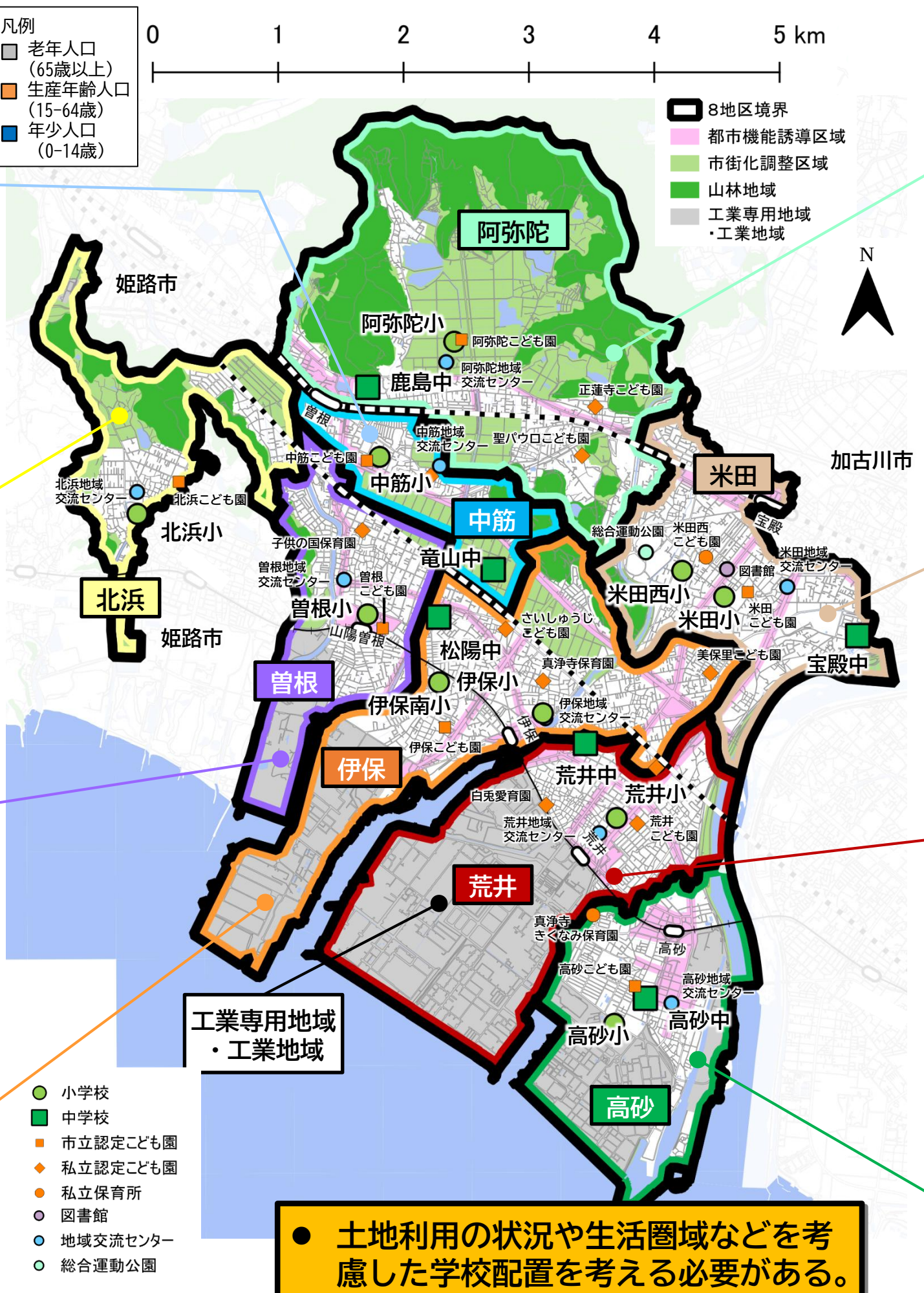
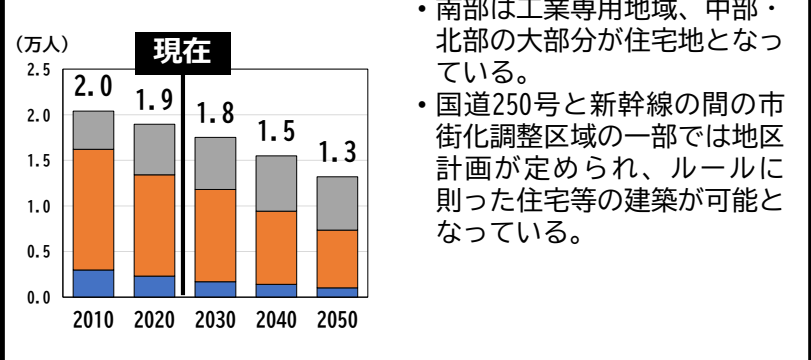
北浜地区



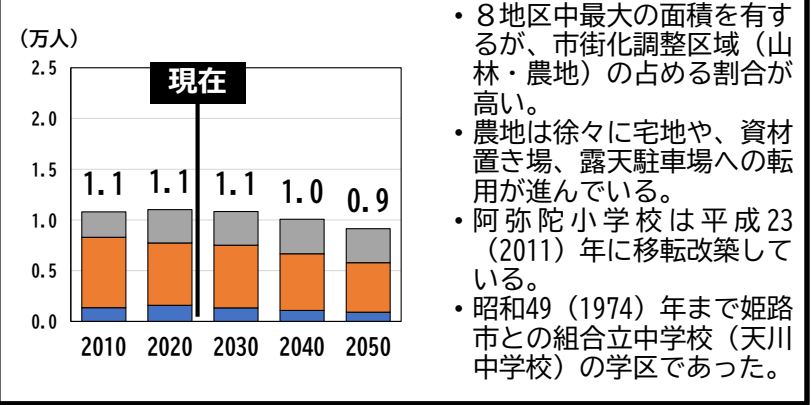
曽根地区



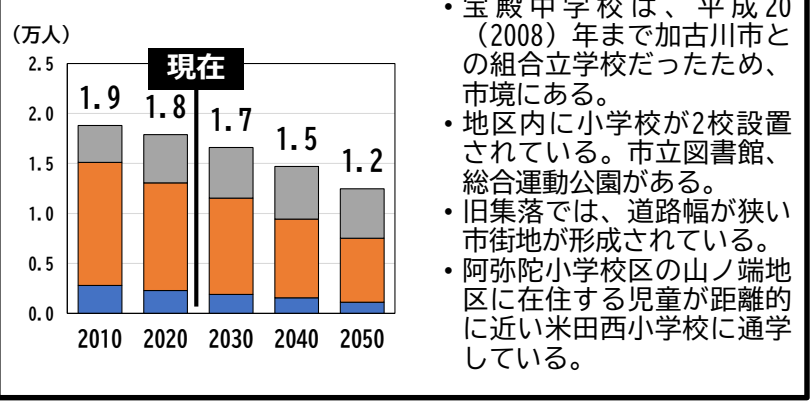
伊保地区



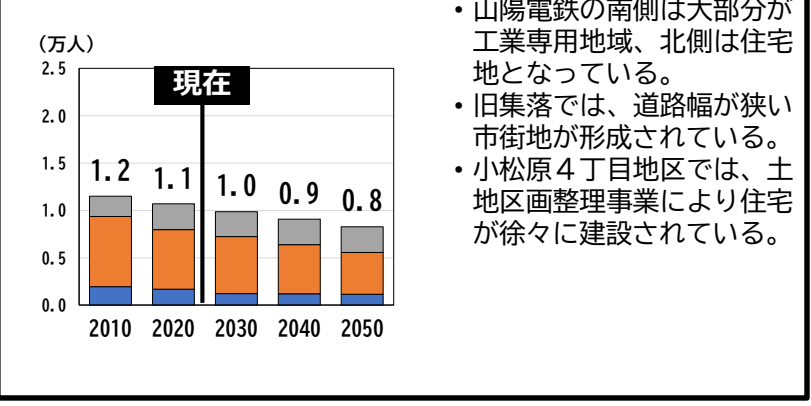
阿弥陀地区



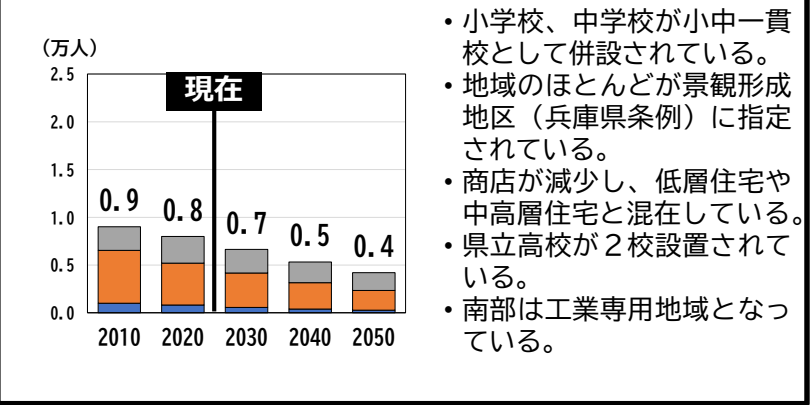
米田地区



荒井地区



高砂地区



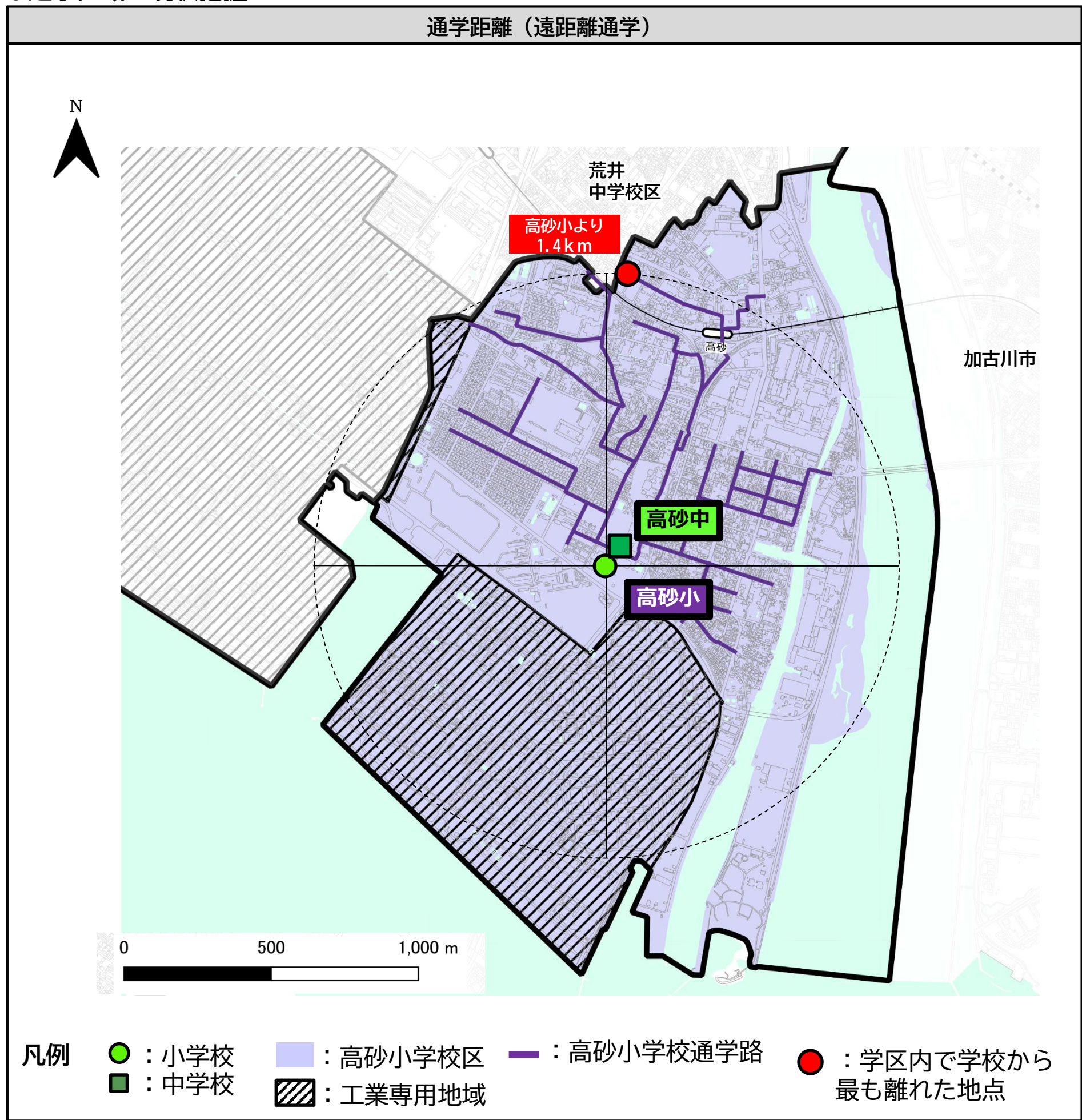
● 土地利用の状況や生活圏域などを考慮した学校配置を考える必要がある。

地区別の人口推計は、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3(R2国調対応版)」を用いて算出。

2. 通学区域の調査検討

(1) 高砂中学校区

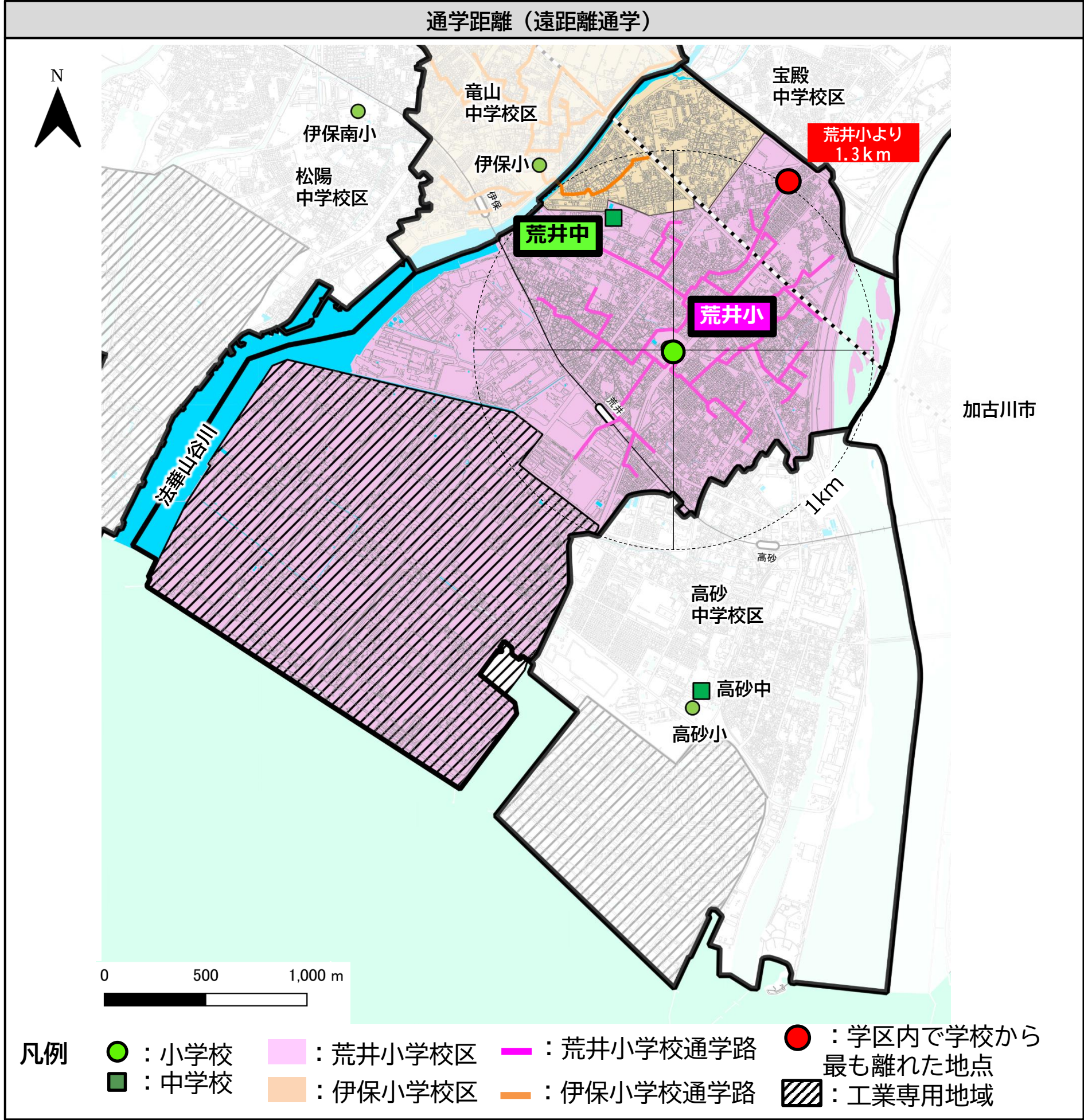
●通学区域の現状把握



実態
【学校数】 ● 中学校1校に対して、<u>小学校1校</u>（高砂小学校の全員が進学する）
【学校間の距離、位置】 ● 高砂小学校・高砂中学校の半径1 km以内に隣接小・中学校はない。 ● 高砂小学校・高砂中学校は地区の中心に位置しているが、地区の南半分が工業専用地域のため、住宅が並ぶ範囲で見ると、南端に設置されている。 ● 高砂小学校・高砂中学校の敷地は隣接し、小中一貫校（併設型）として市内から通学が可能となっている。 ● 荒井中学校区とは市街地が連続している。
【通学距離】 ● <u>高砂小学校</u>の通学区域において最も遠い児童の通学距離は約1.4km。
【地域】 ● 高砂中学校区は、市の8地域区分では高砂地区となる。

2. 通学区域の調査検討

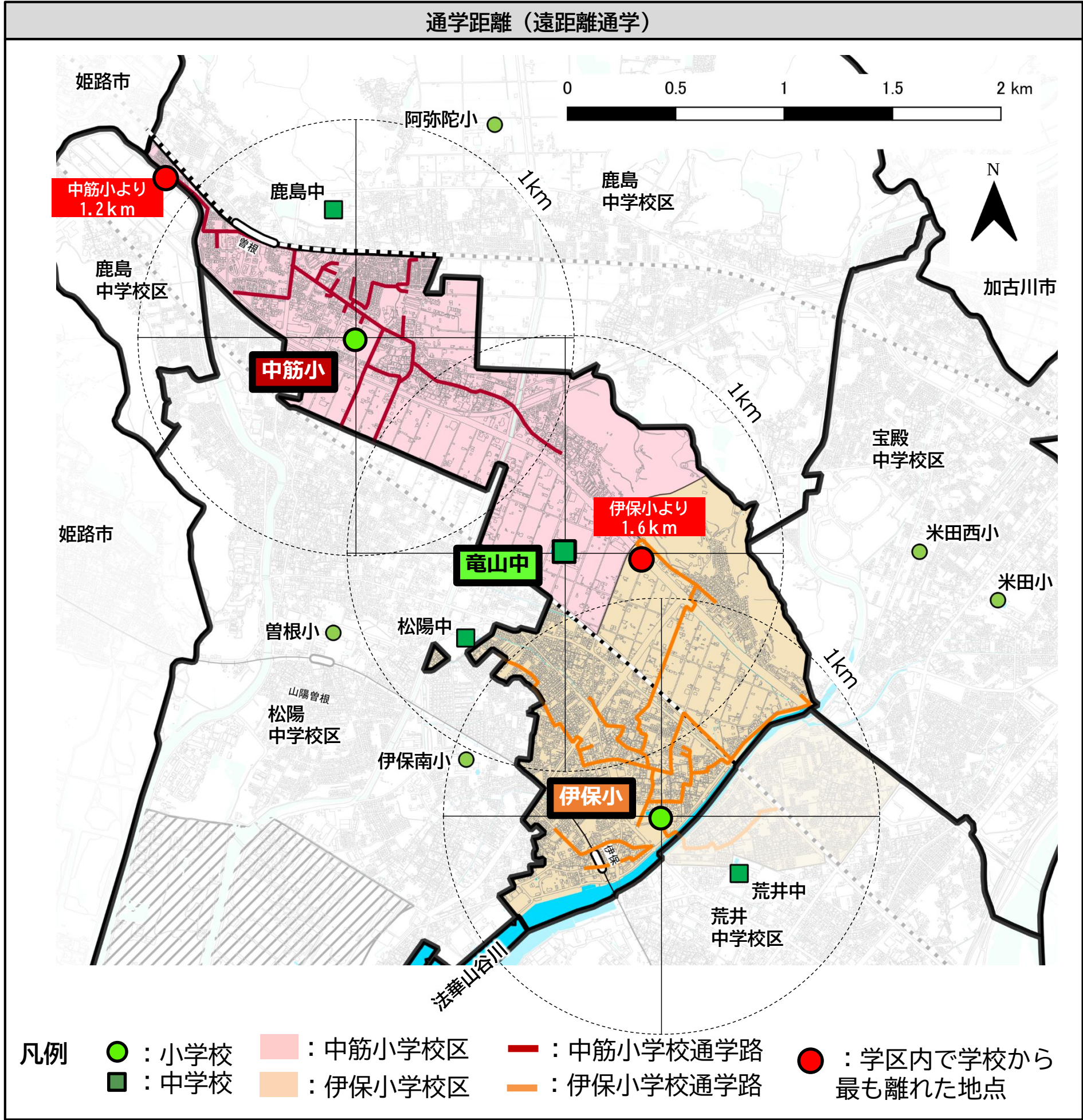
(2) 荒井中学校区
●通学区域の現状把握



実態
【学校数】 ● 中学校 1 校に対して、<u>小学校 2 校</u>（荒井小学校の全員と伊保小学校の一部が進学する）
【学校間の距離、位置】 ● 荒井小学校の 1 km 圏内に小学校はない。 ● 山陽電車荒井駅より南側の居住地は限られている。 ● 荒井地区は南半分が工業専用地域のため、住宅が並ぶ範囲で見ると、地域のほぼ中央に荒井小学校が設置されている。 ● 竜山中学校区・松陽中学校区とは法華山谷川によって地形的に区切られている。 ● 高砂中学校区・宝殿中学校区とは市街地が連続している。
【通学距離】 ● <u>荒井小学校</u>の通学区域において最も遠い児童の通学距離は約<u>1.3km</u>。
【地域】 ● 荒井小学校区は、市の 8 地域区分では荒井地区となる。 ● 荒井中学校区のうち、伊保小学校区にあたる部分は、市の 8 地域区分では伊保地区に該当する。

2. 通学区域の調査検討

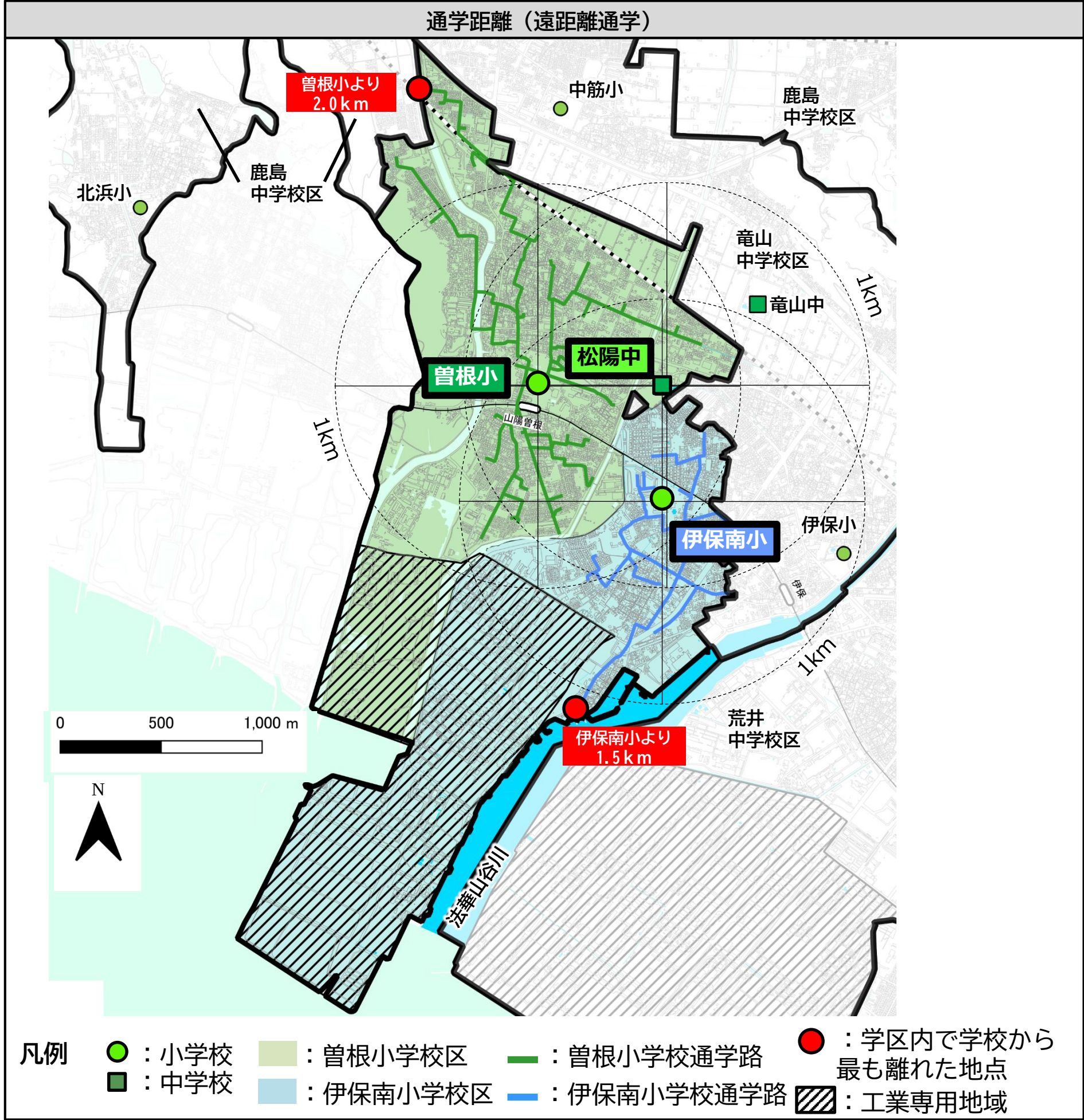
(3) 竜山中学校区
●通学区域の現状把握



実態
【学校数】 ● 中学校 1 校に対して、<u>小学校 2 校</u> (中筋小学校の全員と伊保小学校の大半が進学する)
【学校間の距離、位置】 ● 伊保小学校・伊保南小学校（松陽中学校区）は、隣接校間の距離が 1 km 以内となっている。 ● 伊保小学校区・中筋小学校区には市街化調整区域が広がっており、2 つの小学校区の間地点は、明姫幹線の北側に住宅が広がっている。 ● 荒井中学校区とは法華山谷川によって地形的に区切られている。 ● 松陽中学校区とは市街地が連続している。 ● 宝殿中学校区との間は、山林により分けられている。 ● 鹿島中学校区とはJR線を境に分けられている区域がある。 ● 伊保崎 1 ～ 4 丁目の一部、伊保崎南の一部、松陽 3 丁目は、加入する自治会により指定校が異なることがある。
【通学距離】 ● <u>伊保小学校の通学区域において最も遠い児童の通学距離は約 1.6 km。</u> ● <u>中筋小学校の通学区域において最も遠い児童の通学距離は約 1.2 km。</u>
【地域】 ● 竜山中学校区は、市の 8 地域区分では伊保地区の一部（北側）と中筋地区が該当する。

2. 通学区域の調査検討

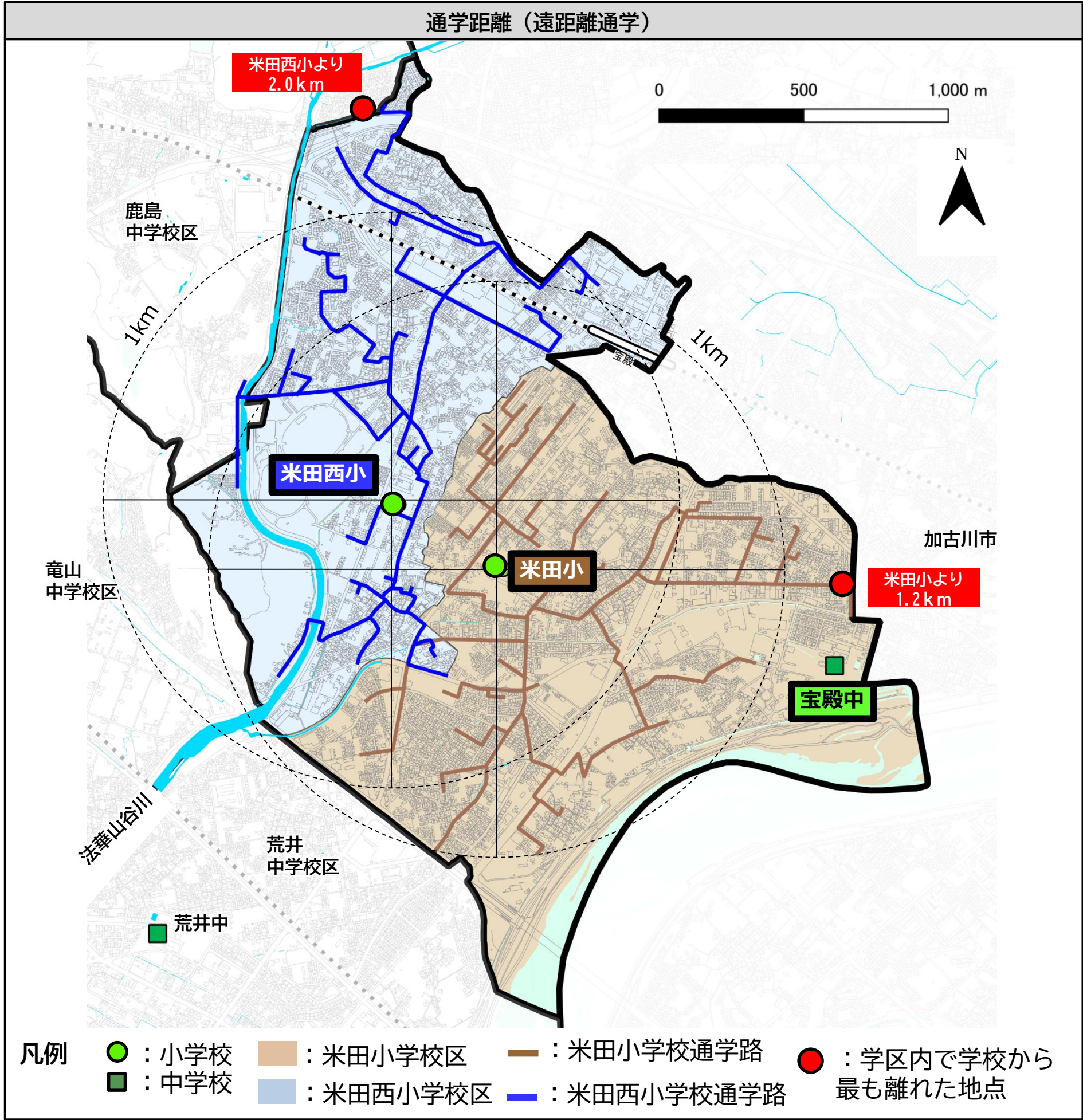
(4) 松陽中学校区
●通学区域の現状把握



実態
【学校数】 ● 中学校 1 校に対して、<u>小学校 2 校</u>（伊保南小学校、曾根小学校の全員が進学する）
【学校間の距離、位置】 ● 伊保南小学校・曾根小学校は、隣接校間の距離が1km以内となっている。 ● 伊保南小学校・伊保小学校（竜山中学校区）は、隣接校間の距離が1 km以内となっている。 ● 松陽中学校・竜山中学校は、隣接校間の距離が1 km以内となっている。 ● 伊保南小学校は、伊保地区の南側に設置されている。 ● 伊保崎 1 ～ 4 丁目の一部、伊保崎 6 丁目の一部、伊保崎南の一部は、加入する自治会により指定校が異なることがある。 ● 曾根小学校は、工業専用地域を除く曾根地区のほぼ中央に設置されている。 ● 荒井中学校区とは法華山谷川によって地形的に区切られている。 ● 竜山中学校区・鹿島中学校区とは市街地が連続している。
【通学距離】 ● <u>伊保南小学校</u>の通学区域において最も遠い児童の通学距離は約 <u>1.5km。</u> ● <u>曾根小学校</u>の通学区域において最も遠い児童の通学距離は約 <u>2.0km。</u>
【地域】 ● 松陽中学校区は、市の 8 地域区分では伊保地区の一部（南側）と曾根地区が該当する。

2. 通学区域の調査検討

(5) 宝殿中学校区
●通学区域の現状把握

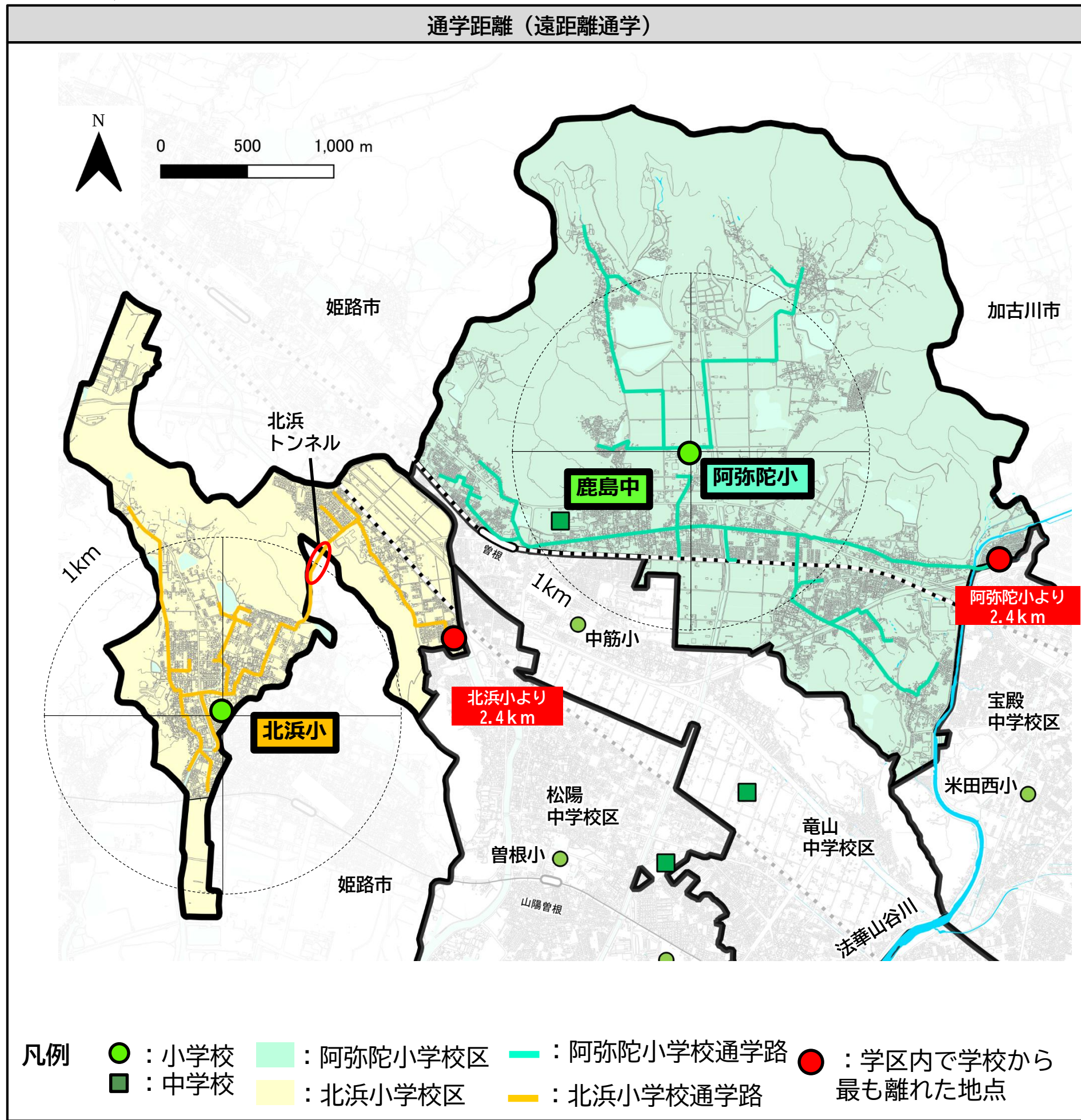


実態
【学校数】 ● 中学校 1 校に対して、<u>小学校 2 校</u>（米田小学校、米田西小学校の全員が進学する）
【学校間の距離、位置】 ● 米田小学校・米田西小学校は、隣接校間の距離が500m以内となっている。 ● 過去に加古川市との組合立学校だった経緯より、宝殿中学校の位置は学区の最も東の、加古川市境付近にある。 ● 竜山中学校区とは山林、鹿島中学校区とは法華山谷川によって地形的に区切られている。 ● 荒井中学校区とは市街地が連続している。
【通学距離】 ● <u>米田小学校</u>の通学区域において最も遠い児童の通学距離は約<u>1.2km。</u> ● <u>米田西小学校</u>の通学区域において最も遠い児童の通学距離は約<u>2.0km。</u>
【地域】 ● 米田小学校区の一部は、市の8地域区分では荒井地区となる。

2. 通学区域の調査検討

(6) 鹿島中学校区

●通学区域の現状把握



実態

【学校数】

- 中学校 1 校に対して、小学校 2 校
(阿弥陀小学校、北浜小学校の全員が進学する)

【学校間の距離、位置】

- 阿弥陀小学校は、阿弥陀地区の居住者が多くいる地域のほぼ中央にある。
- 北浜小学校は、北浜地区の西側にあり、地区の一部エリアからの通学は、姫路市域をトンネルで通過する必要がある。
- 鹿島中学校は1975年に姫路市との組合立学校の再編により、阿弥陀地区と北浜地区を学区として新設したため、中学校区域が広い。
- 宝殿中学校区とは法華山谷川によって地形的に区切られている。
- 竜山中学校区・松陽中学校区とは市街地が連続している。

【通学距離】

- 阿弥陀小学校の通学区域において最も遠い児童の通学距離は約2.4km。
- 北浜小学校の通学区域において最も遠い児童の通学距離は約2.4km。

【地域】

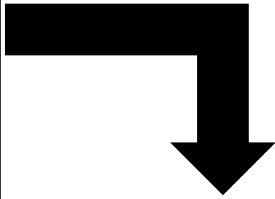
- 鹿島中学校区は、市の8地域区分では阿弥陀地区と北浜地区が該当する。

3. 学校運営コストの視点

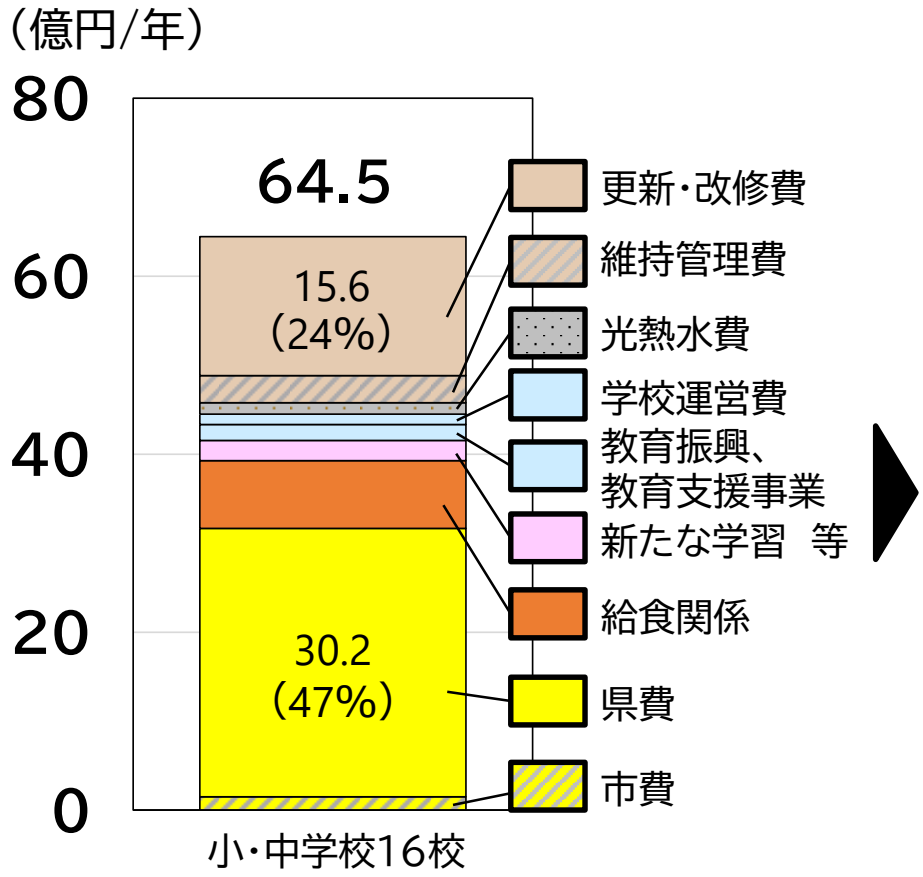
(大項目)		(事業名)
施設面	更新・改修費	●年間総額(単年度平均) (「高砂市学校施設等個別施設計画」に記載されている16校を今後も維持した場合の整備費用をもとに算出)
	維持管理	・小学校施設補修事業費 ・小学校施設整備事業費 ・中学校施設補修事業費 ・中学校施設整備事業費 ・包括管理委託経費 等
管理運営面	学校運営費	・小学校運営管理経費 ・中学校運営管理経費 等
	教育振興・教育支援	・教育支援経費 ・教育振興経費 ・就学奨励経費 等
新たな学習		・ALT活動経費 ・情報教育推進経費 等
教職員	県費	校長、教頭、教諭(担任・特別支援・専科・養護・栄養)、事務、非常勤
	市費	不登校支援員、スクールアシスタント 栄養士 等
給食関連		・小学校給食経費 ・中学校給食経費

管理運営コストの合計	64.5 億円/年
------------	-----------

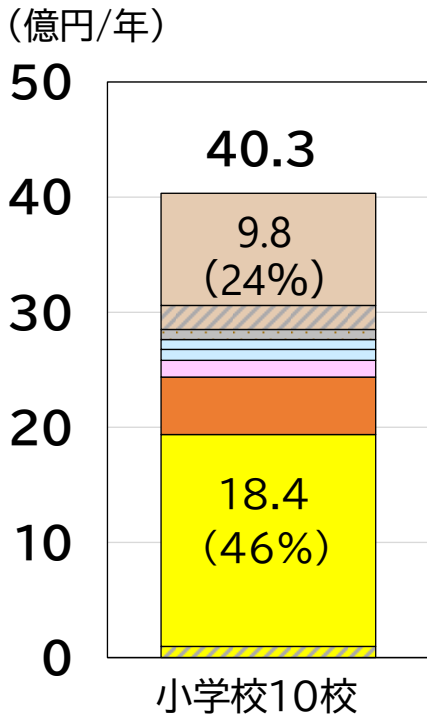
- 更新・改修費のほかに学校教育にはさまざまなコストがかかっている。
- 施設に係るコストとしては、保守点検などの維持管理費や光熱水費などがあり、そのほか、学校運営費や教育振興・教育支援事業などの教育活動に係るコストなどがある。
- 教職員人件費を含めた学校運営コストは、小・中学校全16校で64.5億円／年となっており、小学校は10校平均で4.0億円／年、中学校は6校平均で4.0億円／年となっている。
- 同じ規模の自治体で同様に把握すると、平均1校当たり3～5億円／年になることから、高砂市は平均並みと言える。



16校全校



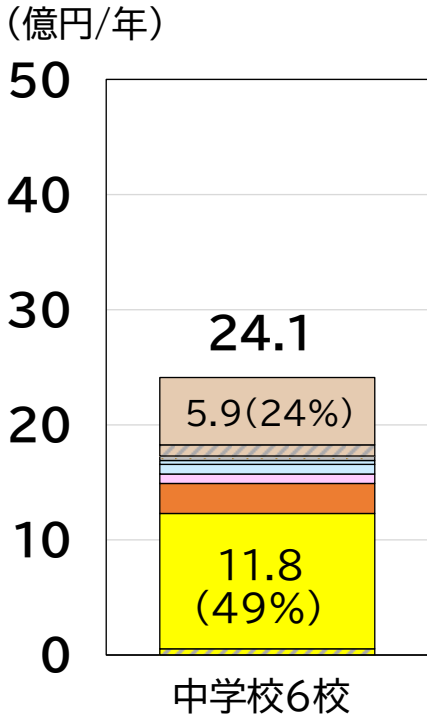
小学校全校



10校平均

4.0 億円/年

中学校全校



6校平均

4.0 億円/年

※教職員数は令和6年5月1日現在
※令和5(2023)年度教育費をもとに整理
※県の職員人件費は「令和6年度 兵庫県の給与・定員管理等について」の教職員平均給与と期末手当・勤勉手当をもとに算出
※市の職員人件費は令和5年度教育費における報酬、通勤費用弁償、職員手当、共済費を集計したもの
※小・中分かれてない費目は学校数で按分